

第1フォーラム

「就学準備～学齡児童のコミュニケーションの支援」

資料

平成17年11月19日(土)

主催 ネットフォーラム推進委員会(東京学芸大学附属養護学校・東京学芸大学)

【就学準備～学齢児童のコミュニケーションの支援】

乳幼児期～就学期の発達障害児とその家族 の発達と支援を育むシステムと支援方法

橋本 創一（東京学芸大学教育実践研究支援センター）

問題：

発達障害児とその家族が豊かな生活をいとなむことを実現していくためには、
以下の計算式が必要である。現在、実践していることやあてはまるものを列挙せよ。

(→私達みんなの宿題かもしれません)

A. あらためて見直そう （「生涯」「地域」「障害特性」「個別化」） × B. 取り組もう （「楽しむ」「選ぶ」「つくる」「支え合う」） = ○○ちゃんの 豊かな生活のためのコミュニケーション支援

問題を解くのは、発達障害児とその家族、そして、ネット
ワークの輪になった多数の支援者です。

A. あらためて見直そう

- ①「生涯」を通した支援が求められ、それを見通した上で各年齢期を豊かにしていく。
本人や家族のねがいや価値観などに基づきライフスタイルが各々違う。違うことがあ
たり前である。
- ②地域で遊び、学び、暮らし、働く etc 支援システムは常に発達障害児・者が生まれ
育って暮らす「地域」にあるべきであろう。その地域の特質や環境から考える。
- ③「障害特性」による共通した支援ニーズがある。例えば、コミュニケーション行動に
おける障害特性からの支援ニーズとは…。
- ④一方で、ひとり一人違った個性があり、支援には「個別化」がはかられる必要性が高
い。「発達障害だから○○ではなく、アイちゃんだから△△」または、「アイちゃん
家は○○、アイちゃんの住んでる地域は□□なんだよー。」という考え方を重視。

B. 取り組もう

「楽しむ」…親が子育てを楽しむ（子どもの成長と達成）、親自身の生きがいを楽しむ、
家族や仲間、地域などの人々と交流し楽しむ

「選ぶ」…地域の社会資源から、子どもや親への支援の方法と場を適切に選ぶ

「つくる」…医療や福祉、教育などの支援の輪を自らとパートナーで地域に創り出す

「支え合う」…地域の親の会（地域性）、障害（自閉症、ダウン症など）ごとの親の会
（広域性）。本人同士、親同士、兄弟姉妹同士、同じ合併症に悩む人同士、
発達障害児を中心に支援する者同士、などの様々なパートナーシップに
より情報交換や協力した活動を支え合う

A. あらためて見直そうの紹介

1. 本人・家族のわがい・価値観への対応

- 保育所・幼稚園から学校への移行支援がない (→就学期移行支援計画)
- 機関の連携が足りない (→個別教育支援計画)
- 習い事をさせたい (→地域資源マップ)
- 兄弟姉妹をフォローしているところがない (→家族支援計画)
- 親と所属機関(園や学校)の希望がマッチしない (→コーディネーター)
- 保育士や教諭などの支援者の指導が物足りない (→支援者研修)
- 幼児期はリハビリテーションなどの専門指導があったのに、学齢期はなくなる (→支援の専門化)
- 学校の送迎と放課後支援がない (→居宅支援事業)
- 子どもの発達支援に悩んでいる、特に、ことばの発達やコミュニケーションのとり方がわからない (→指導の最適化, 専門家のアシスト)

2. ある地域の支援システムの紹介

- 医療・リハビリテーション支援の拡充
 - ・特殊学級へのST, 心理療法士の派遣
 - ・養護学校に言語療法などを導入
- あらゆる場所での発達支援
 - ・学童保育に心理療法士, OTを派遣
 - ・保育所・幼稚園のST, 心理療法士の巡回相談
 - ・親の会による療育や個別の学習訓練会の開催
 - ・音楽教室での療育的対応
- 家族支援も含めて
 - ・ガイドヘルプと児童デイケアによる個別療育指導の展開

3. コミュニケーション行動を支援するために - 障害特性と個別化 -

- 誰もがわかる子ども解説書(個別教育支援計画)
 - <理解シート: 把握すること, アセスメントとよばれるもの>
 - ・子ども自身のコミュニケーション行動における困り感と問題点
 - ・周囲が子どもとかわるための困り感と問題点
 - <支援シート: どんなめあてと方法で支援するかを周囲が共通に>
 - ・子どものもつコミュニケーション行動を促す環境づくり
 - ・子ども自身のコミュニケーションスタイルにあわせた支援ツールの活用
 - ・周囲の大人が積極的に育てようとする取り組み
- 「誰が、どこで、何を、どのように」(コミュニケーション支援の実践)
 - ・サイン言語の指導/文字の獲得と学習支援
 - ・集団活動と個別指導(健常児から受ける刺激とその子のニーズに応じた指導)
 - ・AAC(藤野先生へ)

* **B. 取り組もう** は今後ご一緒につくっていきましょう!

コミュニケーション指導で大切なこと

- 子どもの自発性を尊重する
- 子ども自身にCOMの必要がある場面で教える
- 学校や家庭の中のCOM環境を整える
- 学校・家庭・地域がCOM手段を共有する

社会の中にあるコミュニケーション・バリア

- 話しことばで伝えるのが当たり前、という
先入観
- 他の手段でCOMするのはおかしい。それでは
ことばが育たないのではないか、という
偏見
- 他の手段でCOMしたことがない、という
経験不足
- 他の手段でのCOMのし方がわからない、という
知識不足

コミュニケーション・バリアフリーとは？

- コミュニケーションにはいろいろな方法がある、
という考え方が常識になっている
- 地域や家庭の中にCOM資源 (COMボードや
VOCA等)がある
- COM資源の使い方を一般の人々が知っている



わたしの伝えたいこと
What I want to communicate

コミュニケーション
支援ボード

明治安田こころの健康財団HP
(<http://www.mykokoro.jp/communication/face.htm>)

コミュニケーション支援ボード作成の目的

(三苦, 2005)

- 地域に児童・生徒にわかりやすい表示や絵記号等を
設置する
- 児童・生徒が理解しやすく作成された表示や絵記号等
を学校で学習し、実際の地域で活用できるようにする
- 地域の人々に、表示や絵記号等を用いてコミュニケー
ションを図ることが必要な児童・生徒が生活しており、
理解や支援を必要としていることを知ってもらう
- 共通の絵記号を地域に配布することで、個別に使用し
ているコミュニケーションブック等も同様の趣旨で使用
されていることを理解してもらい、理解の幅を広げても
らう

より良いコミュニケーション支援のあり方

- 子どもや家族のニーズを中心に支援を考えて
いる
- 子どもの日常環境の中で支援を行っている
- 子どもに関係する地域、施設、職場等の人々と
連携している